2022年度活動概要　　テスト研究会

１．研究テーマ

継続的課題である assessment literacy について、下記５件の研究活動を通じて、様々

な側面から日本の英語教育と教員に必要な評価スキルを模索・検証した。それぞれの活動において、最新の理論を実践に結びつけながら、現状調査や実際のテストや評価方法の開発を行った。

1) 日本の英語教育の様々な段階に対応する Assessment literacy の Can-do リストの開発と検証

2) 各教育段階に合ったスキル統合的テストの開発と分析

3) 小学校英語の評価のためのニーズ調査・分析（より大規模な実施）

4) 教室内評価に関する日本人英語教師の信条（Belief）、自己効力感（Self-efficacy）、実践状況（Practice)の調査。分析（より大規模な実施）

5) ELF（世界共通語としての英語）を視野にいれた英語力の測定方法の研究及びテスト項目の開発

2. 活動内容

１）毎月の研究例会

コロナ禍と遠隔地のメンバーのため、毎月の研究例会発表や討議は全てオンラインで行った。毎回、主に国際学会誌に掲載された論文から上記５つの研究テーマに関連するものを選び、担当者の発表、質疑応答、自分たちの研究に生かせる点についての議論という流れで進めた。また、学会発表の準備や内容に関する検討も行った。

２）ワークショップ開催

９月１０日に教職を目指す学生と現職教員のための第１４回ワークショップをオンラインで行った。現行学習指導要領の目標の一つである「スキル統合的指導と評価」をテーマに掲げ、教室内評価と Assessment Literacy を意識したテスト理論と評価法に関する講義、モデル授業、参加者によるテスト作成とその評価方法に関する批評活動を行った。

３）学会発表

読書会から得た知見や上記ワークショップのアンケート結果を踏まえて、調査やテスト結果の分析などを実施し、以下の学会発表を行った。

●PAAL 国際大会での研究発表：TOEFL のスピーキング・スキル統合問題を解く際に使われるストラテジーについて量的・質的分析をし、その結果を発表。

●JACET 国際大会におけるシンポジウム：５人の代表が、現在日本において問題となっている評価に関するテーマ（教師に必要な Assessment Literacy、入学試験、発信能力や語彙力の評価方法など）について現状分析と提案をし、参加者と活発な議論を行った。

●JALT 国際大会での発表：様々な教育段階の教員に対して、教室内評価に関する信条、自己効力感、実践状況の調査をし、その分析結果を発表。